

1、当番での心得。

- 当番へ着いたときは、
まず、神床に向って「二礼・二拍手・一礼」
次に、神主
次が、大当番（当番組・当番親族など）の順に挨拶をすること。
- 食事について、
当家の挨拶があって、宮司が「戴きましよう」と言ってから、お神酒なりお膳に手を付けること。
吸い物や、ご飯も原則的には「どうぞお上がり下さい」の後で手を付けること。
ご飯は、正座し直して頂くこと。

2、神楽の心構え。

- ジーコ監督が、プロとは「一生懸命を出すこと」と言った。常日頃の練習が必要である。
- 鏡で自分をチェックすること。一人でも鏡を見て構えや腰の落とし方などを常に研究すること。
- 田辺豊市さんは、出る前に面の表情をじーと見て、その役に成り切ろうとしていた。

3、櫛舞について。

- 二礼二拍手一礼について、
礼の角度は、90度に傾けることが基本
拍手は、大きくする必要はない、胸の幅が基本
拝は、足を折りながら、60度に傾けるのが基本である。
- 舞について、
はじめ「立舞わば」で立って、三步下がって⇒大回り⇒舞い込み⇒舞戻し⇒二歩出て拝をすること。
「霜月の・・・」の時、膝折をすること。
- 四季の歌などを正確に使うこと、
☆「寅卯の時こそ 双調（そうじょう）とぞ知り」
☆「苦き巳午の 時は黄鐘（おうじき）」
☆「辛き言葉を 嘆く平調（ひょうじょう）」
☆「戌亥の時こそ 盤渉（ばんしき）の声」
☆「丑辰未は 戌の壺越（いちこつ）」 が正式の語具であるので、間違えぬようにすること。
（※広辞苑によると、日本の音名のひとつ、六調子のひとつ、中国の十二律とある）
- その他、
☆「春来れば 柳も目立つ たずの葉も」は違ふ たずとはねずみもちのこと たずも張るが正規。
☆ 櫛の枝をとってからが長すぎる、申し上げはもう少し簡単にすること、あれもこれも奉っていない供物まで並べて言うことも見受ける。
☆ 申し上げの順序は、第一に神殿・御幣・供物、二番目に奉仕の神職・神楽社中、第三に大当番初めて参来集える氏子氏子の身の上。

4、その他

- 稻背脛と両神のやり取りで、両神がふざけてはいけない。神勅にふさわしい言動をとること。

藤井さま

お世話になります。
夜分に失礼します。

ホームページにて、山室先生の五行の歌についての投稿を拝見しました。
雅楽と関係があったとは知りませんでした。
確かによく意味の分からない文言だとは思っていました。

早速雅楽と五行についての関係を調べてみました。

壹越調

中央(壹越調があたる方位)について四方八方をかねて、その徳のすぐれたる也ゆえに壹越調と名づける。明障子に砂をかぐるが如く、声細やかに聞こえ、物にとりつかず。

平 調

金(平調があたる元素)は物を平ぐる心ありとし、平調とする。
春風に柳のたおれかかる如く、これを吹く。

双 調

角は牙なりと、もろもろの草木、地より出る。
やさしくしめじめと、しかも姿のうちに心有るように吹く。

黄鐘調

黄は火の色なり赤けれども、赤くはにざる也。鐘はさかつきとよむ水、萬水の源なり。銚子にすみたる酒の入りたるを見るが如く吹く。心よろこばしき風情有るべし、水音という。

盤渉調

盤はわだかまる。水の心ならへのする心。渉はわたすとあり、陰なり。
しずみてしずかなる徳あり。涼心もしずかなる所有也より心静かにのべかけて吹く。

音の(演奏する)イメージを木火土金水と重ね合わせて配当しているようです。
もしかしたらもう調査済みで、ご存知でしたら申し訳ございません。

勉強になりました。
ありがとうございます。

今後ともよろしくお願いします。

清水